

## リード芦屋新聞

発行元

リードあしや

記事

谷村京美

写真

岩城真優

## 地域を大切に

## A型事業所を運営、鍋島奈穂子さん

芦屋市公光町で、就労継続支援A型事業所「ワークキューブ」を運営している株式会社プランツ・キューブ代表取締役社長の鍋島奈穂子さんに話を聞いた。

プランツ・キューブは職業訓練校から始まっている。その当時あった「園芸コース」と「人を育てる」から「プランツ」、多面体のように多様な方向から考えていくという点で「キューブ」、それらを組み合わせるこの会社の名前がついた。

芦屋で活動を始めた理由については「長く住んでいるというのがあります、



地域の中で何もできないのに外に出て何かすることができるとかと思うので、地域を大事にして

ていきたいです」と話す。就労継続支援A型事業所のため、雇用契約をして働いている人には給料が支払

われる。「やりたい仕事とできる仕事は違い、給料を支払うのに適した力を持っているかなども見えないといけない」と、福祉サービスと雇用契約を合わせる難しさも語る。

その先の自分の能力に合った一般就労に向けて働くというのが第一の目標である。一方で、働く目的によつては、定年までワークキューブで働くという選択肢もあるなど、一人一人を尊重した形を取る。

## 利用者への思い

個性を活かして生き生きと



今回のインタビュウ中、実際に仕事をしているところを見せてもらった。パソコンを使ったデータ処理や、ハンドメイド文具の製作など、一人一人の得意なこと・得意なこと・得意なことに合った作業をしていた。鍋島さんは、作ることで終わらずに、グッズ販売のワークショップなどを通して様々な人とコミュニケーションを取れるようにする機会を作つていきたいそうだ。

この仕事をしていてやりがいを感じることは何かという質問に対して鍋島さんは、「個性をどう活かしていくか、どうすれば利用者さんに負担がかからないか、なおかつ仕事として計画性を持たせられるのか。考えていくのは大変ですが、ここに入る前とは違う生き生きした表情を見られたとき、この仕事をして良かったと感じます」と笑顔で答えた。